

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2021年7月6日放送分・堰場／舟丁】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱=辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。放送とあわせてお楽しみください！

- 先月、七郷堀の流れを路上から覗いた私と木村浩二さん。今回は、奥州街道を少しはずれて寄り道です。
- 広瀬川にかかる愛宕橋の少し下流、変電所の裏側に小さな堰があります。広瀬川から引いた水を、ここで六郷堀と七郷堀に分けているのです。初めて見て、その機械的な仕掛けに見入ってしまいました。こうしたギミックのようなものが好きな方には、オススメです！今は1カ所ですが、江戸時代には広瀬川の2カ所で取水していたそうです。
- 七郷堀は開渠のまま東へ流れて行きますが、六郷堀は暗渠となって宮沢橋のほうへ進んで行きます。その宮沢橋のたもと、お医者さんの玄関先にある辻標が今回訪ねる「堰場／舟丁」です。堰場…何て読むか、分かりますか？今も若林区堰場と、住所にあります。私も…もちろん知っていますよ…。
- 「せきば」ではありません！「どうば」と読みます。難読地名ですね。アナウンサー新人研修で教えなければ！！文字どおり、広瀬川からの取水堰があった場所という意味です。

- かたや舟丁は、その名のとおり船に関する仕事の人々がいた町です。この辺りは、閑上から米や木材などの物資をのせて遡上した船が、遡れるかぎりにおいて城下町にいちばん近い河岸であり、積み荷を下ろした集積場でした。周辺には、藩公認の「御米蔵」や「御材木蔵」などがありました。それらを商いする町が、穀町であり南材木町であり…。ね？つながって來たでしょ。
- ちなみに仙台市急患センターのそばにある、七郷堀にかかる橋は、今でも「蔵前橋」と名前が付いています。というわけで、次回は奥州街道を江戸へ向かう旅に戻り、南材木町の辻標をめざして雰囲気ある街を歩きます。
- <文・佐々木淳吾>

